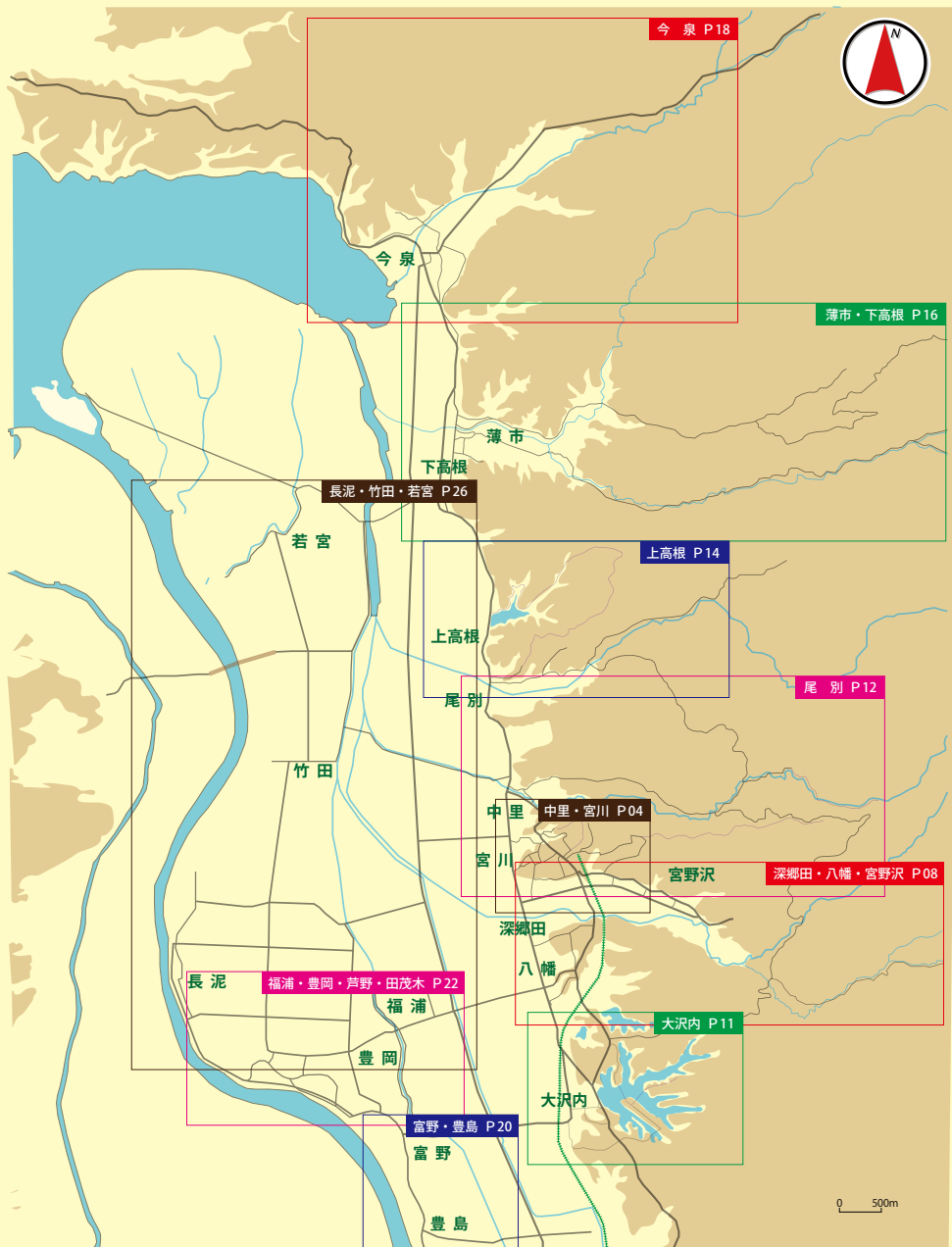


大地の恵みと海の幸 心ひとつに希望のまち

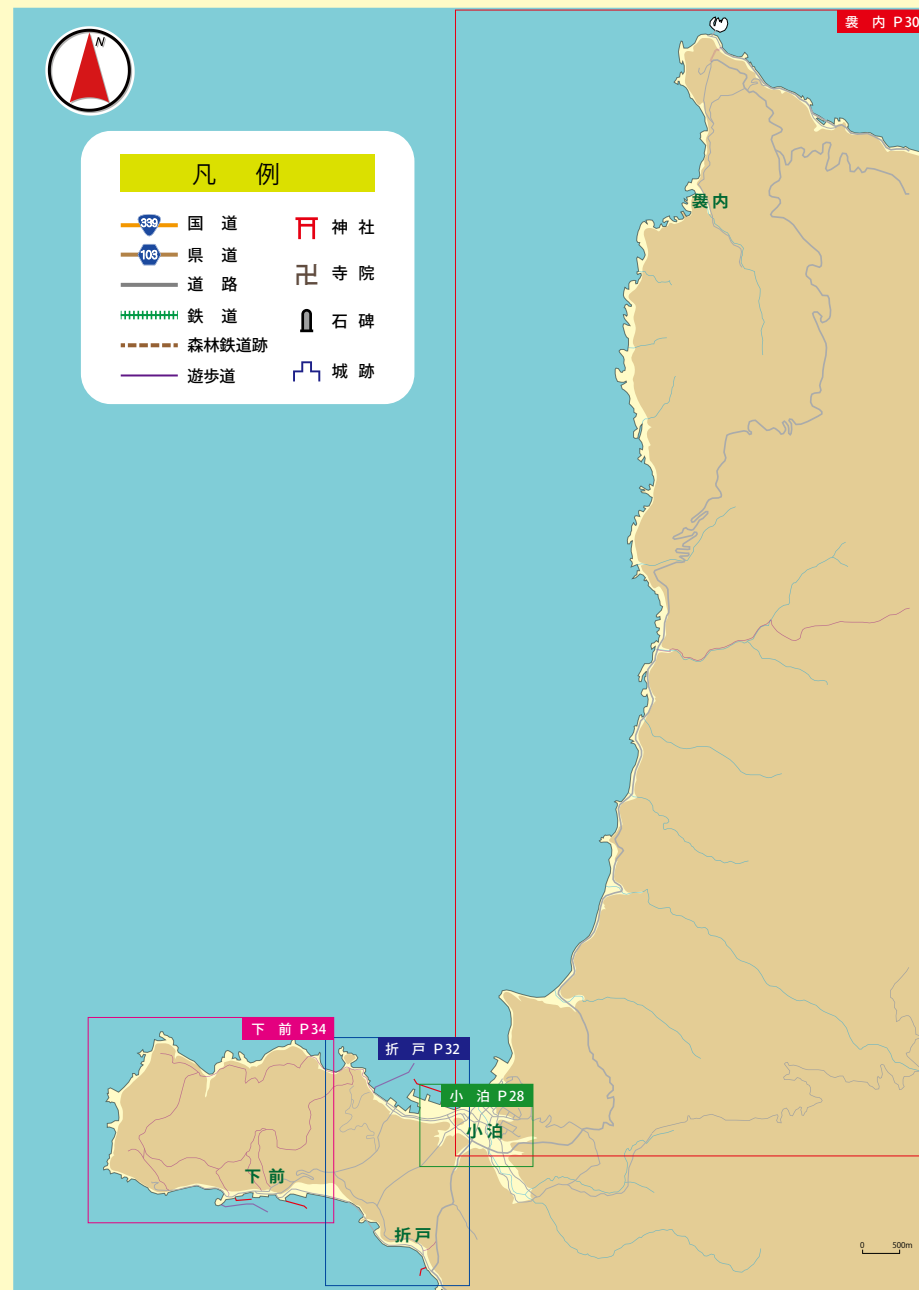
中泊町史跡・ 文化財マップ



中里地域



小泊地域



中里 (なかさと)

中里川左岸に広がる集落。地域の歴史は縄文時代前期に遡り、中里寺屋敷遺跡などから当時の土器や石器が出土している。平安時代には中里川上流域まで集落が広がり、やがて五林遺跡・中里城遺跡など、空壕や柵を巡らせた区画集落が出現する。鎌倉～南北朝時代関連資料については、南部家文書に登場する新關又次郎や、五林神社五輪塔ならびに付近から出土した陶器などがある。室町時代には、中里城・五林館などの中世城館ほか、五林神社宝篋印塔、中里川上流域から採集された陶磁器や懸仏・石塔などの存在から、安藤氏に関連した豪族の存在が推定されており、高坂修理・中里半四郎等の名が伝えられる。

江戸時代初期には弘前藩の領地となり、近世中里村が成立した。当初は田舎庄下ノ切遣、後に田舎庄金木組に所属し同組の中心村落として発展した。明治5年(1872)第三十九小区、同6年第五大区第九小区、同16年北津軽郡第十八組などを経て、同22年(1889)宮川・宮野沢・深郷田・八幡・大沢内各村と合併、中里村大字中里となり、役場が置かれた。昭和5年(1930)五所川原―中間間を結ぶ津軽鉄道が開通すると、物資の集散拠点となり、町制施行により中里町大字中里、昭和30年(1955)には内湯村・武田村と合併し、新制中里町の役場が置かれた。平成17年(2005)中里町が小泊村と合併した結果、中泊町大字中里となり、同町役場が置かれ現在に至る。小字として亀山・紅葉坂・山科・



中里城跡史跡公園展望台からの眺望となり近代化が進んだ。昭和16年(1941)町制施行により中里町大字中里、昭和30年(1955)には内湯村・武田村と合併し、新制中里町の役場が置かれた。平成17年(2005)中里町が小泊村と合併した結果、中泊町大字中里となり、同町役場が置かれ現在に至る。小字として亀山・紅葉坂・山科・

A 日蓮宗思親山妙法寺

昭和27年(1952)唯厚院日要開基。当初は向町に所在したが、平成10年(1998)立教開宗七五〇年記念事業として現在地に移転した。



B 中里北地蔵堂

C 日蓮宗薄山弘法寺

本尊十界曼陀羅。法立寺(弘前市)末寺。慶長10年(1605)法立寺七世実成院日光開山。元々薄山村にあり実成寺と称していたが、延宝元年(1673)中里村に移り薄山弘法寺と改称した。弘法寺建立については貞享元年(1684)説もある。



D 弘法寺七面様

正徳3年(1713)丹波治郎助が七面大天女を本尊とする七面堂を建立。眠りの神様、安産の神様、雨乞の神様として知られる。

F 中里城跡史跡公園

平安時代の区画集落を復元した史跡公園。竪穴建物跡・柵列跡・井戸跡・空壕跡などが復元整備されている。展望台からは、眼下に展開する中里の町並みや、津軽平野に浮かぶ岩木山などが望見される。平成15年(2003)保存状態が良好で、北奥地方における古代の様相を考えると重要な遺跡であるとの事から県史跡に指定された。



県指定文化財



G のれ! それ! 中里歌詞碑

シンガーソングライター河島英五自筆の歌詞(作詞 寿田道留)を基に、「のれ! それ! 中里」実行委員会が平成11年(1999)8月22日に建立。河島英五は、神明宮境内ほかで開催された「中里城址古代口マンコンサート」に3度にわたって出演した。



H 中里神明宮

祭神天照皇大神。創建年代不詳、寛文3年(1663)再建。元々現在地の北側、甲子塚のある高台にあったと伝えられるが、弘化4年(1847)加藤庸制(代々郷士・金木組大庄屋を務めた加藤家8代加藤九八郎)ほか、現在の場所に復興したとされる。社殿内に平尾魯仙・百川学庵など往事の著名な絵師が描いた絵馬などがある。



H 中里地区忠魂碑



H 工藤他山頌徳碑

工藤他山は、著名な教育者・歴史学者。文政元年(1818)弘前古堀町生まれ。藩校稽古館助教を経て、嘉永5年(1852)中里村に寺子屋を開き、以来文久3年(1863)まで11年間にわたって子弟を教授した。この間中里村教員源次郎の娘磯子と結婚、長男隼太、次男覚蔵(後の外崎寛。漢学者・史家。森鷗外の小説「濫江抽斎」に実名で登場することでも知られる。)が誕生した。他山工藤先生宅址碑は、明治33年(1900)中里時代の教え子宮越要三郎・井沼益太郎らが、次男外崎寛と相談して神明宮境内に建立したものである。



I 荒神宮

祭神軻遇突智神を祀る。文政7年(1824)創建とされるが、貞享元年(1684)『貞享の絵図』、貞享4年(1687)『検地水帳』に見えることから、それ以前の創建である。



J 戦没者慰霊碑



K 中里地藏堂・百万遍

宗玄庵跡に所在。百万遍には「三ヶ年百万遍供養」と刻まれている。



M 五林神社・五輪塔・宝篋印塔

祭神源義経の従者大導寺力の妻オリ。オリの墓とされる五輪塔と、宝篋印塔が数基祀られている。五輪塔は鎌倉時代の造塔とされ、中世のものとしては県内最大級である。宝篋印塔は室町時代の造塔とされ、完全なものはないが関西式の形態である。近年福井県の日引石製であることが判明した。

また付近の水田からは、蔵骨器と推定される鎌倉時代の珠洲壺も出土している。



町指定文化財 宝篋印塔

珠洲壺

町指定文化財 五輪塔

N 中泊町博物館

中泊地域を中心とした奥津軽の歴史を、時期別に様々な切り口で紹介。体験型展示も充実している。



Q 三界万霊塔

「三界万霊、南無阿弥陀佛、有縁無縁」と刻まれていることから、飢饉で亡くなった人々を供養するために、江戸時代に建立された碑と考えられる。地域では、飢饉時禁断の薪を伐った村人を庇って処刑された清十郎なる人物の伝承に因んで「清十郎地蔵」と称されている。



L 真宗大谷派東松山真勝寺

本尊阿弥陀如来。寛文5年(1665)越前国誓願開基。正徳3年(1713)浄土真宗大派真勝寺として正式に成立。正徳4年説もあり。元来十三願竜寺末寺であったが、明治以降東本願寺(京都)を本山とする。



O 加藤家旧宅跡

加藤家は、金木出身の作家太宰治の親戚であり、金丸呉服店を営んでいた。加藤家の娘タキは、小説『津軽』に登場することでも知られる。

「修つちやあ。」と呼ばれて、振り向くと、その金丸の娘さんが笑ひながら立つてゐる。私より一つ二つ年上だつた筈であるが、あまり老けてゐない。「久し振りだなう。どこへ。」「いや、小泊だ。」私はもう、早くたけに逢ひたくて、他の事はみな上の空である。「このバスで行くんだ。それぢやあ、失敬。」「さう。帰りには、うちへも寄つて下さいよ。こんどあの山の上に、あたらしい家を建てましたから。」指差された方角を見ると、駅から右手の緑の

小山の上に新しい家が一軒立つてゐる。(『津軽』より)



宮川 (みやかわ)

宮野沢川右岸台地に広がる集落。江戸時代前期弘前藩田舎庄金木新田の村として成立した。当初は、現在地西側の低地「宮川字霞」に所在したものが、度重なる水害のため、元文2年(1737)頃現在地に移転したとされる。

明治5年(1872)第三十九小区、同6年第五大区第九小区、同16年北津軽郡第十八組などを経て、同22年(1889)中里・宮野沢・深郷田・八幡・大沢内各村と合併、中里村大字宮川となった。昭和16年(1941)町制施行により中里町大字宮川、平成17年(2005)中里町が小泊村と合併した結果、中泊町大字宮川となり、現在に至る。小字として色吉・霞・種取・鶴泊がある。



宮川獅子踊り

P 津軽中里駅・金多豆蔵劇場

津軽鉄道終着駅。駅構内には、町無形民俗文化財「津軽伝統 金多豆蔵人形芝居」を毎月第一土曜日公演する劇場がある。



町指定文化財



R 中里石碑群

文政8年(1825)建立の庚申塔と、建立年代不明の甲子塔がある。



庚申塔



甲子塔



S 宮川甲子塔

T 宮川稲荷神社

祭神倉稲魂命。天文元年(1532)創建と伝えられるが、詳細は不明である。



V 宮川・五林地蔵堂



宮川地藏堂



五林地蔵堂

U 宮川石碑群

天保3年(1832)建立の庚申塔、明治18年(1885)建立の二十三夜塔がある。



庚申塔



甲子塔

宮野沢 (みやのさわ)

宮野沢川右岸の台地に広がる集落。地域の歴史は縄文時代に遡り、宮野沢母沢遺跡から往事の磨製石斧が出土している。平安時代には蜷沢遺跡・宮野沢遺跡に古代集落が誕生した。現在運動公園がある丘陵は、かつて小祠が散在するとともに、空壕跡が存在したことから、城館の可能性も考えられる。中世については真偽のほどが不明であるが、文明13年(1481)南朝の皇子尊圀王が逗留したことにちなんで「宮ノ沢」と称されるようになったという伝承がある。江戸時代初期には弘前藩の領地となり、近世宮野沢村が成立した。当初は田舎庄下ノ切遣、後に田舎庄金木組に所属した。



桐の木沢溜池

明治5年(1872)第三十九小区、同6年第五大区第九小区、同16年北津軽郡第十八組などを経て、同22(1889)年中里・宮川・深郷田・八幡・大沢内各村と合併、中里村大字宮野沢となった。昭和16年(1941)町制が布かれたことにより中里町大字宮野沢、平成17年(2005)中里町が小泊村と合併した結果、中泊町大字宮野沢となり現在に至る。小字として宮野沢・蜷沢・浦島・袴腰山がある。

A 宮野沢西地藏・百万遍

百万遍は明治20年(1887)建立。



B 宮野沢南地藏堂



C 宮野沢観音堂石碑群

大正4年(1915)建立の庚申塔、明治19年(1886)建立の二十三夜塔ほか、山神・馬頭観音・金毘羅・甲子塔などが祀られている。



二十三夜塔



庚申塔



D 井沼清七像

井沼清七は中里出身の名スプリンター。昭和3年(1928)アムステルダムオリンピック大会において400メートルリレー選手として活躍し、青森県初のオリンピック出場選手となった。



G 山神様

宮野沢川支流大石沢沿いに佇立する巨大な人面岩。昔から山仕事を人達の信仰を集め、周辺には朽ちた山神鳥居も埋没する。



F 落としバッコ

宮野沢川支流苗代沢沿いにある横穴。周辺に製鉄関連の部材や鉄滓が散布することから、製鉄用木炭を製造するための炭窯と考えられる。



H 桐の木沢溜池

石碑群

昭和8年(1933)新設記念碑、昭和33年(1958)改修記念碑。



深郷田 (ふこうだ)

宮野沢川左岸の台地に広がる集落。地域の歴史は縄文時代前期に遡る。深郷田遺跡では、縄文時代前期の深郷田式土器より、同晩期の亀ヶ岡式土器に至るまで連続して資料が出土していることから、長期間にわたって人々が生活していたと考えられる。深郷田遺跡・甘木遺跡などでは、平安時代の土器や竪穴住居跡が発見されており、古代集落が広がっていた様子がわかる。なかでも一本松遺跡(深郷田館)は、空壕跡を巡らせた古代区画集落である。中世については詳細が不明であるが、一本松遺跡から鎌倉時代の白磁、深郷田遺跡から室町時代の珠洲が出土していることから、何らかの勢力が存在していたことは確かである。江戸時代初期には弘前藩の領地となり、近世深郷田村が成立した。当初は新田八幡村と称し、田舎庄下ノ切遣、後に田舎庄金木組に所属した。元禄年間頃深郷田村と改称し、享保8年(1723)には金木新田富野村から弘前藩御蔵が移された。



弥三沢溜池

明治5年(1872)第三十九小区、同6年第五大区第九小区、同16年北津軽郡第十八組などを経て、同22年(1889)中里・宮川・宮野沢・八幡・大沢内各村と合併、中里村大字深郷田となった。昭和16年(1941)町制が布かれたことにより中里町大字深郷田、平成17年(2005)中里町が小泊村と合併した結果、中泊町大字深郷田となり現在に至る。小字として富森・早田・甘木がある。

I 深郷田八幡宮

祭神菅田別命。創建年代不詳であるが、天正7年(1579)再建、中里・深郷田・宮野沢三ヶ村の産土神となる。元来袴腰岳山頂に鎮座していたものが、現白旗神社に遷座し、さらに現在地に遷ったとする伝承がある。



J 浄土宗悟真山善導寺

本尊阿弥陀如来。浄土宗貞昌寺(弘前市)末寺。万治2年(1659)念誉閑栄大和尚開山。境内に、明治22年(1889)建立の百万遍がある。



I 深郷田八幡宮石碑群

庚申塔は文化5年(1808)、二十三夜塔は、元治2年(1865)建立。



二十三夜塔



庚申塔

八幡 (はちまん)

深郷田集落に連続する台地に広がる集落。地域の歴史は縄文時代に遡り、八幡遺跡からは縄文土器や、平安時代の土師器が出土している。近世八幡村の成立について詳細不明であるが、元禄年間頃弘前藩田舎庄金木新田の村として成立したと考えられる。なお元々大里村であったものを享保11年(1726)八幡村と改称したとされる。また元禄年間の製作が推定される「金木新田之図」では、後に八幡村に吸収される船岡村が鳥谷川河口付近に描かれている。同図が正しいとすれば、水害等により、船岡村は宇田池・松虫付近に移転したと考えられるが、明治初年までには廃村となり、八幡村に吸収された。明治5年(1872)第三十九小区、同6年第五大区第九小区、同16年北津軽郡第十八組などを経て、同22年(1889)中里・宮川・宮野沢・深郷田・大沢内各村と合併、中里村大字八幡となった。昭和16年(1941)町制が布かれたことにより中里町大字八幡、平成17年(2005)中里町が小泊村と合併した結果、中泊町大字八幡となり現在に至る。小字として八幡・盛山・日向・池田・松虫がある。

K 深郷田西地蔵堂



L 八幡御蔵跡

享保8年(1723)金木新田富野村から移された弘前藩御蔵跡。享保18年(1733)説もあり。



M 八幡百万遍

文化8年(1811)建立。



O 八幡地藏堂



N 八幡稲荷神社

祭神倉稲魂命。天文元年(1532)創建と伝えられる。



N 八幡稲荷神社石碑群

文化5年(1808)庚申塔ほか、1基の民間信仰碑がある。



Q 深郷田駅

昭和7年(1932)開設。付近一帯は「底無し沼」として知られ、鉄道建設工事の際に難渋を極めた場所である。



P 深郷田東地蔵堂



R 深郷田百万遍

明治34年(1901)建立。



F 胸肩神社

祭神田心姫命・市杵島姫命・湍津姫命。創建年代不詳であるが、元文元年(1736)『検地水帳』に「弁才天社地」がみえることから、それ以前の創建である。



大沢内 (おおざわ内)

溜池西方の低地に広がる集落。歴史は縄文時代に遡り、大沢内遺跡から縄文土器や石器が出土している。平安時代には、跡・ニタ見遺跡に古代集落が誕生した。近世大沢内村の誕生について詳細は不明であるが、元禄7年(1694)「御国図」、元禄年間の製作が推定される「金木新田之図」とも大沢内村は見られないことから、同村は大沢内溜池が築造永年(1704~1711)頃弘前藩田舎庄金木新田として成立したと考えられる。なお「金木新田之図」には、明治9年(1876)大沢内村に吸収された久米田村が、岩木川沿岸に描かれている。同図が正しいとすれば、水害等により、久米田村は現在の胸肩神社付近に移転したと考えられる。明治5年(1872)第三十九小区、同6年第五大区第九小区、同16年北津軽郡第十八組などを経て、同22年(1889)中里・宮川・宮野沢・深郷田・八幡各村と合併、字大沢内となった。昭和16年(1941)町制が布かれたことにより中里町内、平成17年(2005)中里町が小泊村と合併した結果、中泊町大字大沢内となり現在に至る。小字として海原・住吉・ニタ見・田浦がある。



A 大沢内北地蔵堂



B 大沢内駅



C 大沢内西百万遍



昭和17年建立。

D 大沢内墓地百万遍



文政5年(1822)建立。

E 大沢内ニタ見石碑群

天保3年(1832)・安政3年(1856)・慶応2年(1866)・昭和8年(1933)・昭和43年(1968)ほか建立の庚申・二十三夜塔がある。



G 十和田神社

水神を祀る。神社麓の低地からは水が豊富に湧出し、近年まで利用されていた。またかつては船乗りたちの信仰も集めており、船絵馬も奉納されていたという。



J 大沢内南百万遍



I 大沢内観音堂

津軽霊場八十八か所。88体の地藏が並ぶ。



H 大沢内溜池石碑群

昭和3年(1928)・昭和5年(1930)・昭和7年(1932)建立の溜池関係碑。



L 大沢内溜池ナラの木

推定樹齢200年・樹高約25m・幹周470cm。大沢内溜池東岸に生ずるミズナラの巨木。



M 湧つぼ

大沢内溜池内にある自然湧水地。平成20年(2008)環境省「平成の名水百選」に選出された。



尾 別 (おっべつ)

尾別川流域に広がる集落。歴史は縄文時代に遡り、玉ノ井遺跡から縄文土器が採集されている。平安時代には、胡桃谷遺跡(尾別館)・笹館遺跡・板橋遺跡(赤坂館)など、尾別川沿いの台地に集落が開かれ、後には空塚等を巡らした区画集落へと発展する。鎌倉～南北朝時代については、『南部家文書』に登場する乙邊地小三郎光季を尾別館主に比定する説がある。また尾別館付近から出土した中世陶器や懸仏、尾別川上流にあったとされる解脱庵の本尊は、いずれも室町時代頃の資料であり、安藤氏と関連のある豪族の存在が推定される。

江戸時代初期には弘前藩の領地となり、近世尾別村が成立した。当初は田舎庄下ノ切遣、後に田舎庄金木組に所属した。明治5年(1872)第三十九小区、同6年第五大区第九小区、同16年北津軽郡第十九組などを経て、同22年(1889)高根・薄市・今泉各村と合併し、内瀨村大になった。昭和30年(1955)内瀨村が中里町と合併し、中里町大字尾別、平成17年(2005)中里町が小泊村と合併した結果、字尾別となり現在に至る。小字として浅井・湯島・井ノ上・胡桃谷・小谷・玉ノ井がある。



尾別観音堂からの眺望



E 天台宗解脱山弘誓寺

本尊釈迦如来。昭和4年海野円海が解脱庵本尊を安置して観音霊場寺創立、昭和19年現在地に移転、昭和21年弘誓寺と改称した。本尊如来坐像ほか、近くの苗代から出土した懸仏が町有形文化財に指定されている。



木造如来坐像

町指定文化財



町指定文化財

銅懸仏



解脱庵双盤

G 尾別馬頭観音

江戸時代には「惣染堂」と称された。



A 尾別北地蔵・百万遍

尾別橋南側に所在。右側の百万遍は、昭和13年(1938)建立。



D 尾別神明宮

祭神天照皇大神。明治6年(1873)神仏分離令により、飛龍宮から分立。



B 高根川改修記念碑

昭和17年(1942)古川松太郎建立。



C 尾別薬師堂

かつて存在した鉱泉「薬師湯」に勧請された薬師堂。嘉永元年(1848)奉納の俳句額が掲げられていた。



尾別薬師堂俳句奉納額

H 中里薬師堂・経塚

貞享元年(1684)『貞享の絵図』、貞享4年(1687)『検地水帳』にみえることから、それ以前の創建である。なお近くの円墳状の盛土から経石が発見されている。



I 寺屋敷跡

かつて開墾された際に中世懸仏破片が出土。



K 喜上上げ

昭和初期、中世の供養である宝篋印塔塔身が出土したとされる。現在所在不明。

J 大導寺屋敷跡

源義経の従者大導寺力終馬の地。討手の頼朝勢と奮戦の末、討死したとされる。かつて礎石のような石が出土したという。



L ユズリ平

かつて開墾された際に、縄文時代後期の土器や平安時代の土師器、室町時代の信楽壺が出土した。



M 千年松・蒼前神塔

樹高約20m・幹周は3～4mのクロマツ。根元に鳥居と、文化5年(1808)建立の石碑がある。馬の守護神蒼前神を祀る民間信仰碑であり、通常は相染・惣染なども表記されるが、同碑では「尊全堂」と刻まれている。



尊全堂碑

N 不動の滝

落差7m。中里川上流に位置し、不動尊信仰の対象となっている。



高根 (たかね)

上高根溜池南側の上高根と、北側の下高根からなる集落。城館跡である黒崎館遺跡や、製鉄址である小金石遺跡などが認められるが、詳細は不明である。上高根溜池の築造が寛永年間(1624-43)とされることから、近世高根集落もそのころの成立と考えられる。当初は黒崎村と称していたが、貞享3年(1686)高根村と改称。貞享2年(1685)黒崎村に御蔵設置、貞享4年(1687)高根御蔵に年貢を納めたとの記録が残される。最初は田舎庄下ノ切遣、後に田舎庄金木組に所属した。

明治5年(1872)第三十九小区、同6年第五大区第九小区、同16年北津軽郡第十九組などを経て、同22年(1889)尾別・薄市・今泉各村と合併し、内瀧村大字高根となった。昭和30年(1955)内瀧村が中里町と合併し、中里町大字高根、平成17年(2005)中里町が小泊村と合併した結果、中泊町大字高根となり現在に至る。小字として小金石がある。



上高根稲荷神社からの眺望

A 上高根北地蔵堂



B 冷水コ・惣染堂

上高根北端の自然湧水傍らに、馬頭観音・勢至観音を祀る。



B 植樹報恩碑

大正15年(1926)内瀧村長奥田順蔵建立。



B 高根保安林碑

昭和42年(1967)中里町長塚本恭一建立。



C 上高根溜池石碑群

寛永年間(1624-43)築造、元禄年間(1688-1703)築造ともされる。当初は鳥谷沢溜池と称した。溜池西岸には、大正8年(1919)・昭和8年(1933)・昭和31年(1956)建立の溜池関係碑や水神塔が並ぶ。



D オドシコの穴

かつて母沢に残されていた横穴群。製鉄に伴う炭窯と考えられる。



E 四本マッカ

幹から4本が枝分かれしている推定樹齢200年のミズナラ。山神として祀られており、根元には小堂と山神象がある。



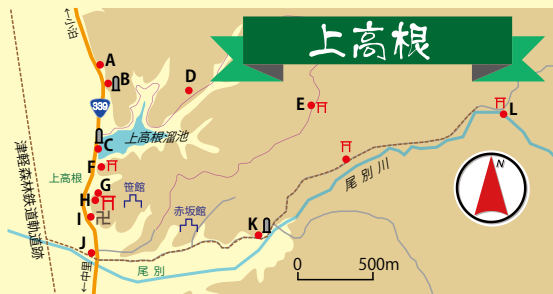
F 上高根甲子塔

上高根溜池南岸の高台に所在。昭和30年(1955)建立の甲子塔や大黒天像が祀られている。



G 鬼神堂

小堂と、明治34年(1901)建立の鬼神塔がある。



I 西光庵

深郷田善導寺末派、天明3年善導寺住僧廊道開基。本尊は貞伝作と伝えられる石造釈迦如来像。



J 上高根南地蔵堂



K 明治百年植林記念碑



H 内瀧地区忠魂碑

一戸兵衛陸軍大将の書による大正6年(1917)建立の日露戦争忠魂碑。



H 上高根稲荷神社

祭神倉稲魂神。創建年代不詳であるが、貞享4年(1687)『検地水帳』に「稲荷神社地」がみえることから、それ以前の創建である。明治初年下高根稲荷神社の選擇所となったが、昭和22年(1947)復社した。境内には大正5年(1916)建立の庚申塔、昭和58年(1983)



建立の二十三夜塔を納めた庚申堂などがある。



庚申堂

I 上高根基地忠魂碑



I 上高根基地力士碑



L 解脱庵跡

尾別川上流不動の滝上にあつたとされる寺院。かつて鐘鼓・茶臼などが出土したとされる。廃庵後、本尊の釈迦如来は尾別村古川治五兵衛方を経て、弘誓寺に安置された。弘誓寺には、享保15年(1730)銘のある解脱庵双盤、宝暦4年(1754)銘のある解脱庵梵鐘も伝わる。



L 山神堂



薄市 (うすいち)

薄市川下流部に広がる集落。花持遺跡・田野沢遺跡などでは、平安時代の土師器が出土していることから、地域の歴史は古代に遡る。江戸時代初期には弘前藩の領地となり、近世薄市村が成立した。その頃、雲祥寺(後に金木に移転)や実成寺(後に中里に移転、弘法寺となる)などの寺院も建立され、新田開発の拠点として発展した。当初は田舎庄下ノ切遣、後に田舎庄金木組に所属した。

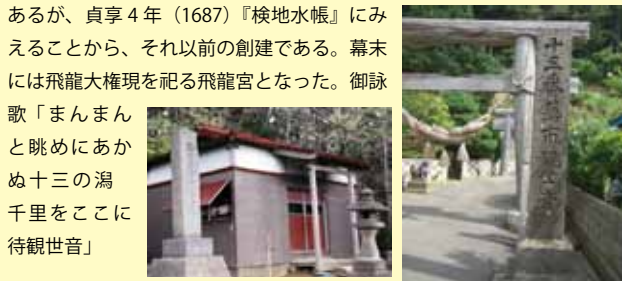
明治5年(1872)第三十九小区、同6年第五大区第九小区、同16年北津軽郡第十九組などを経て、同22年(1889)尾別・高根・今泉各村と合併し、内潟村大字薄市となり、役場が置かれた。昭和30年(1955)内潟村が中里町と合併し、中里町大字薄市、平成17年(2005)中里町が小泊村と合併した結果、中泊町大字薄市となり現在に至る。小字として沖原・飛石・玉清水・花持・田野沢がある。

A 昆布掛北地蔵堂 **B 昆布掛南地蔵堂** **C 薄市北地蔵堂**



D 薄市観音堂

津軽三十三観音十五番札所。本尊千手観音。元禄元年(1688)創建説もあるが、貞享4年(1687)『検地水帳』にみえることから、それ以前の創建である。幕末には飛龍大権現を祀る飛龍宮となった。御詠歌「まんまんと眺めにあかぬ十三の湯千里をここに待観音」



E 明治百年植林記念碑



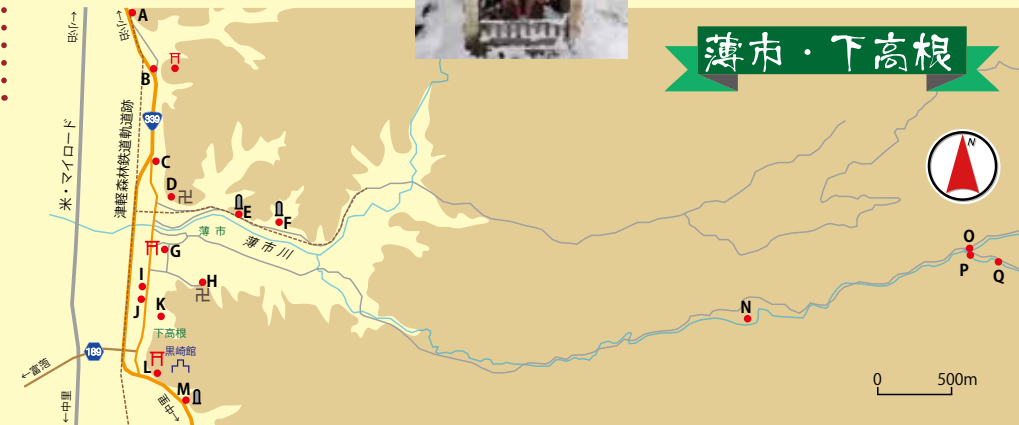
E 薄市甲子塔



F 薄市墓地忠魂碑



薄市観音堂からの眺望



G 薄市八幡宮

祭神菅田別尊。創建年代不詳であるが、貞享4年(1687)『検地水帳』にみえることから、それ以前の創建である。天明飢饉時に廃絶したが、天保6年(1835)再建。元々薄市山中に鎮座していたが白髭水に押し流され、現在地に遷ったとも伝えられる。境内に、忠魂碑などがある。



H 寺屋敷跡

現薄市小学校付近。かつて雲祥寺・実成寺(弘法寺)があった場所と伝えられる。雲祥寺は正保2年(1645)金木村へ、実成寺は延宝元年(1673)中里村へ移転した。

H 北湖グラウンド記念碑 **N 高山龍神宮**



I 薄市南地蔵堂



J 下高根北地蔵堂



K 下高根墓地忠魂碑



K 高根御蔵跡

貞享2年(1685)高根御蔵設置という。下高根北端に分離令により稲荷神社となった。創建年代不詳であるが、貞享4年(1687)『検地水帳』に「大日堂地」がみえることから、それ以前の創建である。宝暦10年(1760)再建。

L 下高根稲荷神社

祭神倉稲魂神。江戸時代は大日如来を祀る大日堂であったが、明治初年神仏分離令により稲荷神社となった。創建年代不詳であるが、貞享4年(1687)『検地水帳』に「大日堂地」がみえることから、それ以前の創建である。宝暦10年(1760)再建。



M 下高根南地蔵堂



M 佐々木惣七翁頌徳碑

佐々木惣七は、大正時代はじめて植林事業を行い、高根保安林の基礎を築いた人物。昭和14年(1939)内潟村長古川松太郎建立。

忠魂碑 世界平和祈念碑

Q 二番滝



O 左一番滝



P 右一番滝



今泉 (いまいずみ)

十三湖東岸、今泉川河口に広がる集落。藤ノ森遺跡などの縄文遺跡ほか、唐崎遺跡（安倍太郎屋敷）・今泉神明宮遺跡・唐崎東遺跡といった古代～中世の城館跡が認められる。江戸時代初期には弘前藩の領地となり、近世今泉村が成立した。当初は田舎庄下ノ切遺、後に田舎庄金木組に所属した。江戸時代後期には、今泉川流域で製鉄や製紙業が行われ、幕末～明治初頭には一部が藩営化された。

明治5年(1872)第三十九小区、同6年第五大区第九小区、同16年北津軽郡第十九組などを経て、同22年(1889)尾別・高根・薄市各村と合併し、内潟村大字今泉となった。昭和30年(1955)内潟村が中里町と合併、平成17年(2005)中里町が小泊村と合併した結果、中泊村大字今泉となり現在に至る。小字として布引・唐崎・神山・藤ノ森がある。



十三湖畔からの眺望

B 今泉賽の河原

寛文9年(1669)今泉観音堂が建立された場所。幕末飛龍大権現を祀る飛龍宮となったが、神仏分離令により明治6年(1873)神明宮を分立、堂社は取り壊されたが、同8年今泉山に再建された。同地には地藏尊も祀られていたが、享保元(1716)年善導寺六世良演上人が川倉村へ遷したという。



B 源氏山又市碑

今泉出身の関脇で、明治の角界で活躍した。昭和10年(1935)内潟村青年団今泉建立。



十三湖と岩木山

C 吉田松陰遊賞之碑

嘉永4年(1851)吉田松陰は江戸長州藩邸より出奔し、熊本藩宮部鼎三とともに東北歴遊の旅についた。翌嘉永5年3月4日今泉通過、紀行『東北遊日記』には「今泉・合津を經、十三瀧の辺を過ぎて小山を越ゆ。山は瀧に臨みて岩城山に対し、真に好風景なり。」とある。昭和6年(1931)松陰来遊を記念した初代碑が、有志によって建立された。徳富蘇峰題字、守屋磨瑳夫碑文、久保木保寿書。破損した同碑は、蓮華庵(五所川原市相内)に修復再建された。現在の碑は三代目となる。



初代碑



H 中泊町博物館今泉分館

旧今泉小学校を活用した保存施設。「津軽の林業用具(国登録有形民俗文化財)」「川舟」をはじめ、農具・雑貨など、教室ごとに分類・収蔵展示をおこなっている。



D 今泉墓地 魂碑・小堂



小堂奉納鉄塊



C 下之切通碑



しものかきりどおり



J 今泉南地蔵堂・百万遍



川舟

国登録有形民俗文化財 林業用具



F 田ノ沢溜池碑



山神鳥居

G 今泉鉄山跡 (今泉母沢遺跡)

今泉一帯では、慶長15年(1610)より製鉄が始まったとされるが、操業が本格化するの幕末である。安政6年(1859)鉄工明珍重吉・商人今村万次郎が西洋式製鉄法に成功、万延2年(1861)より弘前藩士楠美庄司を奉行として藩営化された。鉄山の一つ今泉母沢遺跡では、山神鳥居や、近世後期の鉄滓・肥前磁器等が採集されている。



I 津軽森林鉄道今泉停車場跡

青森市沖館から蟹田をまわり喜良市に至る66.9kmの本線は、明治42年(1909)完成、翌43年には全線で運行を開始した。本線と相内支線の分岐点となる今泉には、停車場や土場が設けられた。トラック輸送の発達に伴って、昭和42年(1967)廃止となった。



開業当初の今泉停車場

E 今泉神明宮

祭神天照皇大神。神仏分離令により明治6年(1873)飛龍宮から分立。宝暦7年(1757)・文化7年(1810)の棟札や、力士源氏山が幼少のころ描いたとされる絵馬がある。境内社として庚申堂・山神堂などがある。



山神堂



源氏山奉納絵馬

E 今泉観音堂

津軽三十三観音十六番札所。本尊千手観音。寛文9年(1669)唐崎山(現賽の河原)に建立され、幕末には飛龍大権現を祀る飛龍宮となった。神仏分離令により明治6年(1873)神明宮を分立し、観音堂社は取り壊されたが、明治8年(1875)現在地に再建された。御詠歌「むかしより有とも知らぬ今泉 千年の影ぞ有明の月」。



富野 (とみの)

岩木川下流右岸の低地に広がる集落。万治元年（1658）出羽国大川作右衛門・加賀谷弥八郎によって開拓され、弘前藩田舎庄金木新田富野村として成立した。金木新田の中心村落として発展し、元禄11年（1698）には広須・俵元・金木三新田の祈願所として般若寺が開基されるとともに、宝永元年（1704）弘前藩御蔵が設置されたが、水害被害のため、享保18年（1733）八幡村へ移された。

明治5年（1872）第三十八小区、同6年第五大区第八小区、同16年北津軽郡第十七組などを経て、同22年（1889）豊島・芦野・田茂木・長泥・豊岡・福浦各村と合併、武田村大字富野となり、役場が置かれた。昭和30年（1955）

武田村と中里町の合併により中里町大字富野、平成17年（2005）中里町と小泊村の合併により中泊町大字富野となり現在に至る。小字として千歳・大磯・中島・沖津・田今がある。

C 富野石碑群

富野団地入口に、天保2年（1831）・安政4年（1857）建立の庚申塔、嘉永7年（1854）・安政2年（1855）・明治32年（1899）建立の甲子塔が並ぶ。

D 奈良七五郎顕徳碑

奈良七五郎は豊島出身の自治功労者。明治39年（1906）武田村長に就任、以降30年間の長きにわたって地方自治に尽力した。昭和10年（1935）彰徳の銅像が設置されたが、昭和18年（1943）戦時供出され、台座・銘板のみが残された。昭和26年（1951）久しく主を失っていた台座に、当時の首吉田茂揮毫による寿像石碑が建立され、現在に至っている。

D 武田地区忠魂碑

桜づつみ公園内に所在。日清・日露、満州事変～太平洋戦争の忠魂碑3基が並ぶ。



B 齋藤廉丞顕徳碑

齋藤廉丞は、明治10年（1877）富野小学開校以来没するまで35年間にわたって校長を務めた。

A 富野馬頭観音



E 富野猿賀神社

猿賀深沙大権現を祀り、航海安全・五穀豊穡の神様として信仰を集める。明治初年神仏分離令により般若寺から分立。

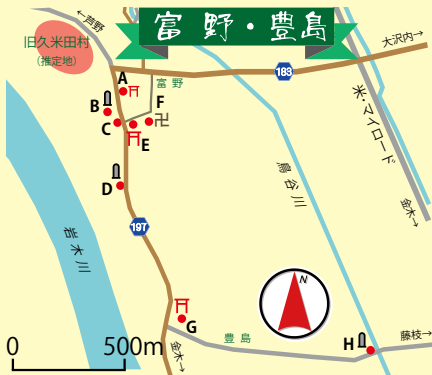


E 猿賀神社石碑群

文政7年（1824）建立の百万遍塔、昭和11年（1936）建立の二十三夜塔がある。



岩木川新堤防 (左) と旧堤防 (右)



E 猿賀神社船絵馬群

江戸後期から明治にかけて奉納された船絵馬88枚が保存されている。最古の船絵馬は、天保2年次郎娘ちよが奉納したものである。



天保2年船絵馬



F 般若寺イチョウ

般若寺境内にある町内最古のイチョウ。かつては、同寺境内を囲んでイチョウ・ケヤキ・マツの三樹が植えられていたが、現在唯一残されているのがこのイチョウの木である。これらの三樹については、金木新田の開発にともなって、岩木川の治水工事（土堤構築）を行った弘前藩四代藩主津軽信政が、工事の完成を記念して自ら植えたとする伝承が残されている。

G 豊島熊野神社

祭神伊邪那岐命・伊邪那美命。元禄13年（1700）創建。寛文6年（1666）説もあり。享保7年（1722）岩木川洪水で流出、享保13年（1728）現在地に再建されるという。



庚申塔



百万遍

H 中島堰記念碑

土地改良に伴う揚水機水塔竣工記念碑であり、昭和31年（1956）建立された。



豊島 (としま)

岩木川下流部右岸の低地に広がる集落。万治3年（1660）野呂半左衛門によって開拓され、弘前藩田舎庄金木新田豊島村として成立した。元文元年（1736）『検地水帳』には、熊野宮ほか、稲荷社もみえるが現存しない。

明治5年（1872）第三十八小区、同6年第五大区第八小区、同16年北津軽郡第十七組などを経て、同22年（1889）富野・芦野・田茂木・長泥・豊岡・福浦各村と合併、武田村大字豊島となった。昭和30年（1955）武田村と中里町の合併により中里町大字豊島、平成17年（2005）中里町と小泊村の合併により中泊町大字豊島となり現在に至る。小字として川袋・豊本・千鳥・宮本がある。

F 天台宗富野山般若寺

本尊阿弥陀如来。元禄11年（1698）広須・俵元・金木三新田の祈願所として考弁開基と伝えられる。元文元年（1736）『検地水帳』にみられる寺屋敷「自性院」は般若寺の前身とも考えられる。天明3年（1783）本道が中興。文化4年（1807）寛範が深沙大権現勧請、文政8年（1825）深沙大権現の分霊遷座により猿賀神宮寺末寺となった。明治初年神仏分離令により猿賀神社を分立。弁財天堂・庚申堂・地藏堂などの境内社、墓地には百万遍塔がある。



百万遍



福浦 (ふくうら)

鳥谷川右岸の低地に広がる集落であり、近世には東側の豊田村と西側の福浦村に分かれていた。豊田村は明暦2年(1656)杉山茂太右衛門、福浦村は寛文5年(1665)豊田村新岡弥惣らによって開拓され、弘前藩田舎庄金木新田として成立した。もっとも元禄年間の製作が推定される「金木新田之図」では、豊田村・福浦村ともに現在地の北側、鳥谷川河口付近に描かれている。同図が正しいとすれば、水害等により、両村ともに現在地に移転した後、享保11年(1726)豊田村は今岡村と改称したと考えられる。



一間堰に浮かぶ川舟

明治5年(1872)第三十八小区、同6年第五大区第八小区、同16年北津軽郡第十七組などを経て、同22年(1889)富野・豊島・豊岡・芦野・田茂木・長泥各村と合併、武田村大字福浦となった。この間明治9年(1876)今岡村は福浦村に吸収された。昭和30年(1955)武田村と中里町の合併により中里町大字福浦、平成17年(2005)中里町と小泊村の合併により中泊町大字福浦となり現在に至る。小字として松野尾・浦島・若野尾・若野浦がある。

豊岡 (とよおか)

鳥谷川の両岸に広がる集落であり、近世には上流の豊岡村と下流の川内村に分かれていた。明暦元年(1655)川内村が深郷田村石川彦左衛門、豊岡村が葛西甚平衛によって開拓され、弘前藩田舎庄金木新田として成立した。元禄3年(1690)金木新田18ヶ村の総鎮守として神明宮が勧請されたのをはじめ、宝永5年(1708)妙乗寺(川内村)、正徳3年(1713)光勝寺(豊岡村)などの寺院が建立されたが、度重なる水害のため妙乗寺は正徳3年(1713)金木村へ移転した。



鳥谷川と豊岡集落 (塚本忠志氏撮影)

明治5年(1872)第三十八小区、同6年第五大区第八小区、同16年北津軽郡第十七組などを経て、同22年(1889)富野・豊島・芦野・田茂木・長泥・福浦各村と合併、武田村大字豊岡となった。この間明治9年(1876)川内村は豊岡村に吸収された。昭和30年(1955)武田村と中里町の合併により中里町大字豊岡、平成17年(2005)中里町と小泊村の合併により中泊町大字豊岡となり現在に至る。小字として若松・緑川・片岡・三笠・俵舩がある。

A 福浦東石群

庚申塔・甲子塔・二十三夜塔がある。



B 福浦墓地百万遍

安政5年(1858)建立。



C 福浦西石群

百万遍塔ほか、1基の民間信仰碑がある。



D 豊岡北百万遍



E 真宗大谷派豊郷山

光勝寺

正徳3年(1713)建立。元来十三願電寺末寺であったが、明治以降東本願寺(京都)を本山とする。



F 豊岡北地藏堂



H 豊岡地藏堂

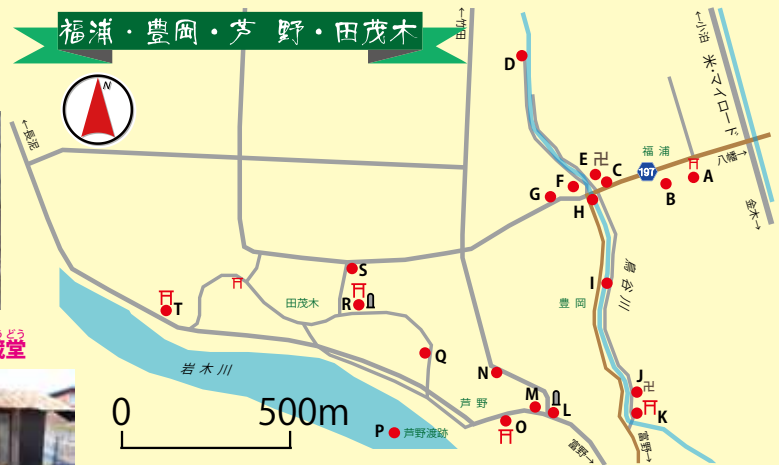


J 浄土院・百万遍

安永2年(1773)深郷田善導寺隠居寺として誠誓円心建立。文化9年(1812)説もあり。安永2年(1773)建立ほか、数基の百万遍塔が並ぶ。



町内最古の百万遍



K 豊岡神明宮

祭神天照大神。寛文元年(1661)創建。元禄3年(1690)金木新田18ヶ村の総鎮守となった。境内社として、元禄13年(1700)創建の加茂神社(祭神別雷神)・稲荷神社(祭神倉稲魂命)、明治13年(1880)創建の猿賀神社(祭神上毛君田道公)がある。



加茂神社



猿賀神社

K 豊岡神明宮石碑群

明治39年(1906)・昭和37年(1962)建立の庚申塔、昭和18年(1943)建立の百万遍、西国三拾三観音碑などがある。



L 武田村水利碑

旧武田村水路改修記念碑(左)・武田村揚水工事竣工記念碑(右)。後者は元々は岩木川河畔にあった。



百万遍



現在の鳥谷川

芦野(あしの)

岩木川下流部右岸の低地に広がる集落。寛文3年(1663)佐渡国佐藤太兵衛と太田村三上彦九郎によって開拓され、弘前藩田舎庄金木新田芦野村として成立した。

明治5年(1872)第三十八小区、同6年第五大区第八小区、同16年北津軽郡第十七組などを経て、同22年(1876)富野・豊島・田茂木・長泥・豊岡・福浦各村と合併、武田村大字芦野となった。昭和30年(1955)武田村と中里町の合併により中里町大字芦野、平成17年(2005)中里町と小泊村の合併により中泊町大字芦野となり現在に至る。小字として福泊・清水・堤の袖がある。



芦野頭首工

田茂木(たもぎ)

岩木川下流部右岸の低地に広がる集落であり、近世には南側の田茂木村と北側の福井村に分かれてい。田茂木村は寛文4年(1664)薄市村坂本弥左衛門・鈴木治左衛門・朴沢の佐野惣右衛門、福井村は翌寛文5年(1665)山神村瀬野有右衛門・葛西開拓され、弘前藩田舎庄金木新田として成立した。

明治5年(1872)第三十八小区、同6年第五大区第八小区、同16年北津軽郡第十七組などを経て、同22年(1876)富野・豊島・芦野・長泥・豊岡・福浦各村と合併、武田村大字田茂木となった。この間明治9年福井村は田茂木村に吸収された。通称「若宮」地区は、岩木川改修工事に伴う新堤防造築のため、長泥から分かれて馬鹿川沿であり、当初は下長泥と称したが、戦後若宮と改称した。また通称「竹田」地区は、国営十三湖干拓建設事業に伴う戦後まもない時期に入植が始まった。昭和30年(1955)武田村と中里町の合併により中里町大字田茂木、平成17年(2005)中里町と小泊村の合併により中泊町大字田茂木となり現在に至る。小字として鳴見・望月・若宮・若緑がある。



カヤニオ

M 延命地藏尊

明治6年(1873)建立。



N 芦野墓地百万遍



N 芦野墓地地藏堂



N 芦野墓地忠魂碑



S 田茂木墓地地藏



T 田茂木神明宮・百万遍

祭神天照皇大神。境内に大山祇大神が祀られるほか、平成4年(1992)建立の百万遍塔がある。



大山祇大神

O 芦野加茂神社・庚申塔

祭神別雷命。庚申塔が1基ある。



庚申塔

R 田茂木稲荷神社

祭神倉稲魂命。元禄13年(1700)創建。延宝3年(1675)説もあり。正徳元年(1711)・宝暦3年(1753)再建。境内社として、保食神社がある。



P 田茂木渡跡



Q 芦野西地藏堂



保食神社

S 田茂木墓地百万遍



R 田茂木稲荷神社石群

弘化3年(1846)・明治2年(1869)・平成6年(1994)建立の庚申塔、明治28年(1895)・平成6年(1994)建立の二十三夜塔、明治3年(1870)建立の百万遍がある。



庚申塔



百万遍



二十三夜塔

R 力士綾瀬川

力士綾瀬川長右衛門引退記念。昭和2年(1927)建立。



R 臨時揚水記念碑

昭和26年(1951)田茂木臨時揚水組合建立。



長泥 (ながどろ)

岩木川下流部右岸堤防沿いに展開する集落。元々は現在地よりも2キロほど下流に位置したが、大正末～昭和初年現在地に移転した。旧村は佐藤六郎左衛門らによって開拓され、文化元年(1804)弘前藩田舎庄金木新田福泊村として成立した。一説には、文化4年(1807)廃寺となった吉出村浄土真宗善照寺が福泊村へ移転したとされるが、詳細は不明である。天保飢饉で廃村となったが、安政5年(1858)三橋又助・坂本弥之助・鈴木権助らが復興し、文久元年(1861)長泥村と改称した。



長泥付近のアシガヤ

明治5年(1872)第三十八小区、同6年第五大区第八小区、同16年北津軽郡第十七組などを経て、同22年(1876)富野・豊島・田茂木・芦野・豊岡・福浦各村と合併、武田村大字長泥となった。大正末～昭和初年岩木川改修工事に伴う新堤防造築のため現在地に移転し上長泥、一部は昭和2年(1927)馬鹿川流域に移転し下長泥と称した。また旧長泥に近接する中長泥地区もその頃の成立である。昭和30年(1955)武田村と中里町の合併により中里町大字長泥、平成17年(2005)中里町と小泊村の合併により中泊町大字長泥となり現在に至る。小字として玉清水がある。



A 長泥稲荷神社

祭神倉稲魂命。文政2年(1819)創建。天保飢饉時廃社となるも、慶応2年(1866)再建。



A 長泥稲荷神社石碑群

明治42年(1909)建立の二十三夜塔、平成7年(1995)建立の百万遍塔などがある。



B 長泥樋口竣工記念碑

昭和35年(1960)建立。



C 中長泥地藏堂・百万遍

百万遍は昭和12年(1937)建立。



D 竹田神明宮

祭神天照皇大神。昭和46年(1971)創建。同年建立の百万遍塔がある。



D 入植二十周年記念碑

昭和49年(1974)建立。

E 入植十周年記念碑

昭和37年(1962)建立。



百万遍



F 若宮 稲荷神社

祭神倉 稲魂命。昭和2年(1927)長泥稲荷神社より分祀創建。



長泥・竹田・若宮

F 簡易水道竣工記念碑

昭和32年(1957)建立。



J 若宮原野開墾水田 四百町歩竣工記念碑

K 内潟沼開田記念碑

昭和41年(1966)建立。



K 若宮水利事業記念碑

昭和43年(1968)建立。

F 若宮稲荷神社石碑群

昭和13年(1938)建立の庚申塔、甲子塔、昭和57年(1982)建立の二十三夜塔などがある。



庚申塔

甲子塔

二十三夜塔

G 馬鹿川

嘉永5年(1852)着工、安政3年(1856)完成。当初は久兵衛川と称されていたが、幕末から明治にかけて馬鹿川と呼ばれるようになったという。

H 若宮揚水電動機設置竣工記念碑

昭和16年(1941)建立。当初は岩木川右岸堤直下、旧若宮小学校付近に建立されていた。



I 若宮地藏堂・百万遍

百万遍は昭和53年(1978)建立。



K 内潟沼開田記念碑

昭和41年(1966)建立。



K 若宮水利事業記念碑

昭和43年(1968)建立。

小泊(こどまり)

日本海に面した漁村。横泊沖海底から縄文草創期の槍先が採集されているが、定住的な生活が始まるのは縄文前期頃と考えられる。坊主沢遺跡では、縄文前期～弥生中期の遺物が大量に出土した。平安時代には、折戸遺跡・坊主沢遺跡などで集落跡が見つかるほか、地域一円で製塩土器や北海道系の擦文土器が採集されている。中世については、弁天島遺跡・小屋ノ沢遺跡などから陶磁器が出土している。また柴崎城跡は、安藤氏の中世城館と考えられている。安藤氏敗退後、小泊地域は南部氏の支配下となったが、近世初頭には弘前藩の領地となった。当初は津軽郡鼻和庄藤代組、享保12年(1727)田舎庄金木組に転属となり、そのまま明治維新を迎えた。



小泊全景

明治4年(1871)第三十九区、同6年第五大区第九小区となるが、同11年郡区町村制により北津軽郡小泊村となる。同16年組合(連合)町村制導入時には第22組に属し、組合戸長役場が置かれた。明治22年市制・町村制が施行され、町村合併が推進されたが、小泊村は単独一村のまま近代村制に移行した。平成17年(2005)中里町との合併により、中泊町大字小泊となり現在に至る。小泊・下前・折戸・袋内の4地区、小字として小泊・下前・折戸・大山長根・坊主沢・漱沢・水潤・浜野・鮫貝・砂山・中間・漆流・淵岩・白倉・梨子木平・長坂・成滝・朝間・山口・割長根・築上・山崎・福尻・尾崎道・土漂・姥島・稲荷・寺屋鋪・阿曾内・冬部・袋内・折腰内・セツ滝・傾り石・萱部がある。

A 日蓮宗法広山正行寺

本尊十界曼荼羅。本行寺(弘前市)末寺。元々飯詰村にあったが、寛永13年(1636)小泊に移転、その後宝永3年(1706)智養院日了が再興した。江戸時代に制作された鯛口・銅鐘が町有形文化財に指定されている。



鯛口
町指定文化財



銅鐘
町指定文化財

B 湊番所跡

寛文4年(1664)設置。湊に入りする船舶・人・物資を管理する湊目付(沖横目)が常駐した。



C 小泊稲荷神社

祭神宇迦御魂神・豊受姫大神。天明3年(1783)建立と伝えられるが、貞享4年(1687)『検地水帳』に「稲荷社地」がみえることから、それ以前の建立と考えられる。稲荷山山頂に鎮座するため眺望にすぐれ、荒川秀山による「小泊十二景」に詠まれている。江戸時代には、遠見番所が置かれ、海上を見張る番人が常駐した。



小泊十二景碑

D 真宗大谷派思柳山西願寺

本尊阿弥陀如来。寛永8年(1631)越後出身の演空開創。当初は鮫貝にあったが、宝永8年(1711)頃現在地に移る。元来十三願寺末寺であったが、明治以降東本願寺を本山とする。寺請証文・蝦夷錦打敷・青玉・養虫山人画など数多くの指定文化財を所蔵する。



寺請証文 町指定文化財



蝦夷錦打敷
町指定文化財



青玉
町指定文化財



E 浄土宗無縁山観音院海満寺

浄土宗誓願寺(弘前市)末寺。万治元年(1658)良無玄道開基と伝えられる。当初は寺屋敷跡に所在したとされる。本尊阿弥陀如来像、脇侍の観音・勢至菩薩が町有形文化財に指定されているほか、境内に百万遍がある。



阿弥陀如来像



町指定文化財

観音・勢至菩薩



町指定文化財

E 海満寺観音堂

津軽三十三観音十八番札所。寛永10年(1633)建立。当初は現神明宮境内にあり、飛龍宮と称されていたが、明治初年神仏分離令によって神明宮を分立、観音堂は現在地に移転した。文政年間小泊沖から引き揚げられた聖観音像(町有形文化財)を祀る。御詠歌「見渡せば御法も深き海満寺鐘の響に浮ぶ海士人」



町指定文化財

聖観音像

G 歴代戸長・村長之碑



G 小泊村開村記念碑



F 下之切通終点之碑

平成12年建立。



K 小泊地区忠魂碑

日清・日露～太平洋戦争までの忠魂碑3基が並ぶ。



I 藤田啓代頌徳碑

昭和59年(1984)建立。藤田啓代は教員・教育長・村長等を歴任した人物。



J 小泊東地蔵堂



K 二宮尊徳像



O 小泊北地蔵堂



M 曹洞宗小泊山春洞寺

本尊釈迦如来。曹洞宗勝岳院(弘前市)末寺。元和3年(1617)勝岳院三世春洞が春洞庵として開創。かつては円山付近に所在したが、昭和30年現在地に移転した。



Q 小泊龍神宮

漁師の神・商売繁盛・学問成就等に利益があると考えられる大綿津見之神を祀る。太宰治と越野タケが訪れた。



B 小泊弁天宮

「小泊十二景」の一つ弁天島山頂に鎮座。天和2年(1682)建立。海上安全と大漁の神として弁財天を祀る。



弁天島



折戸全景



折戸

C 舫岩

北前船(弁財船)を繋留したと伝えられる岩礁。大洞海岸に12ヶ所存在する。



町指定文化財

B 大漁祈念碑

昭和41年建立。



D 大洞海岸

中近世、自然港として利用された浜。中世安藤氏の時代、港湾として機能したという。海蝕洞「岩門」がある。



岩門

E 恵比須宮

海運守護・商売繁盛の神として大洞海岸の洞窟に祀られている。



F 小泊神明宮

祭神天照大神。明治初年神仏分離令によって飛龍宮より分立。延宝元年(1673)寄進の黒漆塗龍頭権現ほか、庚申塔がある。



F 柴崎城跡

安藤氏最後の拠点。嘉吉2年(1442)十三湊を南部氏に攻められた安藤氏は小泊「柴館」に撤退、翌年には津軽海峡を渡って北海道に敗退したとする記録が残る。「柴館」は、柴崎城跡と考えられている。



築港工事

G 小泊港

大正11年(1922)近代的な避難港・漁港整備工事が起工され、翌12年竣工した。竣工後は10~20トンクラスの大型動力船が入港・接岸可能となり、小泊地域における漁業の近代化が一気に促進された。

H 小泊築港記念碑

大正12年(1923)築港竣工を記念して小泊港内に建立されたが、昭和55年(1980)小泊漁業協同組合敷地内に移転された。



I 小泊西地藏堂



J 小泊南地藏堂



K 小泊庚申宮

天保14年(1843)・万延元年(1860)などの年号が入った4基の庚申塔と、1基の二十三夜塔が祀られている。



M ライオンゲートブリッジ

橋長73.4m。田村進氏製作のライオン像など4基のモニュメントがある。



L ライオンベイブリッジ

橋長520m。田村進氏製作のライオン像やスフィンクス像などで飾られている。



N 平田小六文学碑

プロレタリア作家平田小六(1903-1976)文学碑。翌昭和52年(1977)竹内俊吉・淡谷悠蔵・一戸謙三・小山内時雄・磯野金茂らが発起人となり、下前尋常小学校へ赴任した平田小六に生涯忘れえぬ感銘を与えた景勝地(現ライオン岩展望所)に建立された。



ライオン岩とベイブリッジ

O 折戸馬頭観音



P 折戸稲荷神社

祭神豊受姫大神。創建年代不詳。



Q 折戸西地藏堂



R 岩木山大権現堂

天保15年(1844)建立。阿弥陀如来・観世音菩薩・薬師如来石仏が祀られている。



S 津軽坂

菅江真澄『外浜奇勝』に「めおと石をよちて、津軽坂をおりのぼりして小泊のみなとにかつ到ぬ。」との記述がある。

T 折戸東地藏堂

右隣に百万遍がある。



百万遍

R 鍵掛坂

旧下之切道通。松浦武四郎『東奥沿海日記』に「鍵掛勘ケ(解)由」なる蝦夷館がある旨が述べられている。付近に庚申塔がある。

A 阿曾内海岸

中近世、自然港として利用された浜。『安藤宗季讓状』に登場する拠点「阿曾米」の比定地。江戸時代末期から明治時代にかけては弁財船（北前船）も錠泊したとされる。



B 寺屋敷跡

海満寺ほかの寺院や人家があったが、宝永元年（1704）の山津波によって壊滅したとされる。

C 姥岩

「小泊十二景」の一つ。



D 土漂ヶ浜

阿部比羅夫北征時、肉入簗で会った問菟蝦夷の「問菟」を「土漂」に比定する説がある。

E 経島

「小泊十二景」の一つ。



F 羅漢石

「小泊十二景」の一つ。

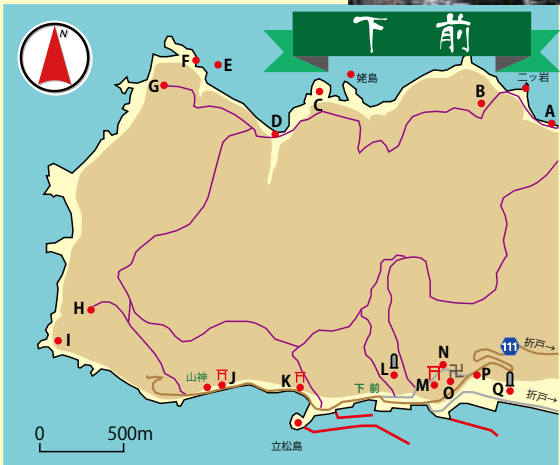


G 北灯台

昭和40年（1965）1月31日点灯。高さ9.96m。



下前全景



L 中泊町博物館下前分館

旧下前小学校を活用した保存施設。漁具・農具など、部屋ごとに分類・収蔵展示をおこなっている。町指定文化財「ドゲ舟」や彫刻家田村進氏の作品も展示している。



町指定文化財

ドゲ舟



漁具



田村進記念室

L 柴谷万九郎 頌徳碑

柴谷万九郎は、下前小学校初代校長。昭和2年（1927）下前青年団建立。



M 下前熊野宮

祭神伊邪那岐命・伊邪那美命。尾崎神社分社として元文2年（1737）建立。町指定文化財『船絵馬』が奉納されているほか、境内には稲荷神社・庚申塔・二十三夜塔・保食神・石神・岩木山なども祀られている。



稲荷神社

N 播磨屋磯野家住宅

「播金」こと磯野家は、蝦夷地の鮮場経営や廻船問屋などの事業で成功を収めた。明治26年（1893）建築。



石碑群



船絵馬

G 旧大湊海軍警備府小泊防備衛所跡

太平洋戦争時、津軽海峡を航行する船舶を監視した基地跡。



I 南灯台

昭和40年（1965）1月31日点灯。高さ12.91m。



H 尾崎神社

祭神伊邪那岐命・伊邪那美命。木造の徐福像も「航海の神」として祀られている。当初は飛龍大権現を祀る飛龍宮であったが、明治初年神仏分離令によって尾崎神社となった。創建年代は不詳であるが、大同2年（807）・明暦2年（1656）・宝暦9年（1759）などの説がある。



徐福像



権現崎

K 下前弁天宮



J 下前不動堂・龍神宮

災難除けの御利益があるとされる波切り不動石仏を祀る。龍神宮ほか、付近には



れる波切り不動石仏を山神も祀られている。



三十三観音碑

O 浄土宗権現山光成院

浄土宗寺院。本尊阿弥陀三尊。明治32年（1899）東京浅草から移転。

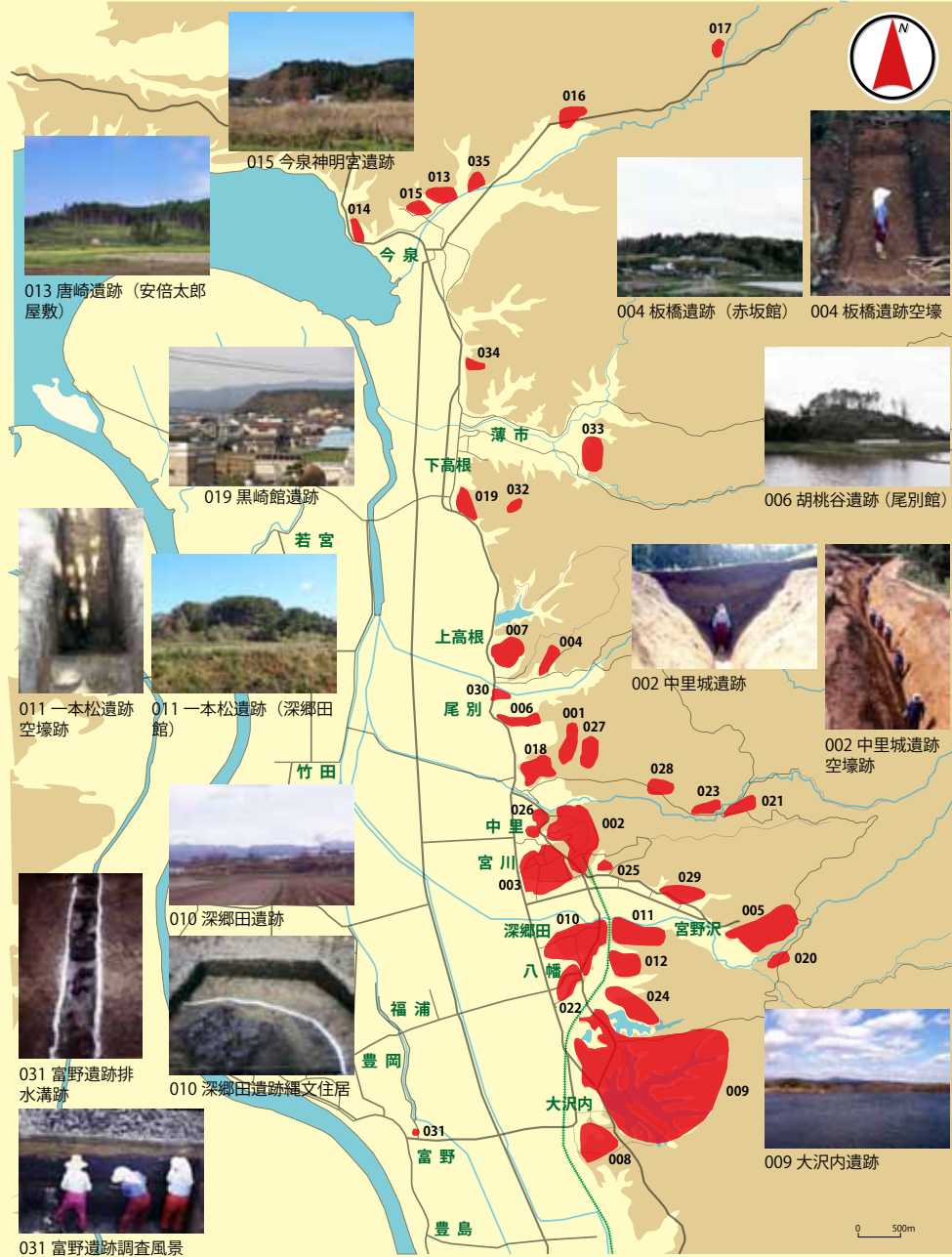


Q 徐福像

約2200年前秦の始皇帝の命を受け、不老不死の薬草を求めて権現崎に漂着したとされる徐福伝説に基づいて平成14年（2002）建立された。



中里地域



小泊地域



国登録文化財

No.	種別	名称	員数	指定年月日
1	有形民俗文化財	津軽の林業用具	353	平成24年3月

青森県指定文化財

No.	種別	名称	員数	指定年月日
1	県重宝	円空作木造男神像	1	平成2年3月16日
2	県史跡	中里城遺跡	1	平成15年4月14日

中泊町指定文化財

No.	種別	名称	員数	指定年月日
1	有形文化財	正行寺鯛口	1	昭和58年4月21日
2	有形文化財	正行寺銅鐘	1	昭和58年4月21日
3	有形文化財	阿弥陀如来像貞伝金仏	1	昭和58年4月21日
4	有形文化財	阿弥陀如来像貞伝金仏	1	昭和58年4月21日
5	有形文化財	阿弥陀如来像貞伝金仏	1	昭和58年4月21日
6	有形文化財	阿弥陀如来像貞伝金仏	1	昭和58年4月21日
7	有形文化財	海満寺阿弥陀如来像	1	昭和58年4月21日
8	有形文化財	海満寺聖観音像	1	昭和58年4月21日
9	有形文化財	海満寺観音菩薩像	1	昭和58年4月21日
10	有形文化財	海満寺勢至菩薩像	1	昭和58年4月21日
11	有形文化財	養虫山人画屏風	1	昭和58年4月21日
12	有形文化財	養虫山人画滝見観音像図	1	昭和58年4月21日
13	有形文化財	養虫山人画無言行中之図	1	昭和58年4月21日
14	有形文化財	養虫山人画宝船図	1	昭和58年4月21日
15	有形文化財	ドゲ船	1	昭和58年4月21日
16	有形文化財	西願寺寺請証文	1	昭和62年5月1日
17	無形民俗文化財	網おこしやし	1	昭和62年10月1日
18	無形民俗文化財	下前権現崎太刀振り	1	平成1年4月1日
19	有形文化財	五林神社五輪塔及び宝篋印塔	1	平成4年4月17日
20	有形文化財	貞享の絵図	1	平成4年4月17日
21	有形文化財	船鑑札	2	平成5年4月1日
22	有形文化財	下前熊野宮船絵馬群	7	平成5年4月1日
23	有形文化財	富野猿賀神社船絵馬群	88	平成7年4月27日
24	天然記念物	般若寺イチョウ	1	平成7年4月27日
25	有形文化財	西願寺打敷蝦夷錦	1	平成8年4月1日
26	有形文化財	養虫山人画大日本富山図	1	平成8年4月1日
27	有形文化財	養虫山人画大仙山之図	1	平成8年4月1日
28	有形文化財	養虫山人画岩手山之図	1	平成8年4月1日
29	有形文化財	弘誓寺懸仏	1	平成9年2月26日
30	有形文化財	弘誓寺如来坐像	1	平成9年2月26日
31	無形民俗文化財	権現太鼓	1	平成9年10月1日
32	天然記念物	筋岩	1	平成11年2月1日
33	無形民俗文化財	中里なにもささ踊り	1	平成18年7月28日
34	有形文化財	養虫山人画襖絵	18	平成20年2月26日
35	有形文化財	西願寺青玉	2	平成21年5月18日
36	有形文化財	阿弥陀如来像貞伝金仏	1	平成21年5月18日
37	無形民俗文化財	津軽伝統金多豆蔵人形芝居	1	平成21年5月18日
38	天然記念物	大沢内溜池ナラの木	1	平成22年4月22日



01 県重宝 円空作木造男神像



阿弥陀如来像貞伝金仏



20 貞享の絵図



11 屏風



12 滝見観音像図



13 無言行中之図



14 宝船図



26 大日本富山図



15 ドゲ船



17 船鑑札



27 大仙山之図



28 岩手山之図



34 襖絵



養虫山人画



17 網おこしやし



31 権現太鼓



18 下前権現崎太刀振り



33 中里なにもささ踊り

無形民俗文化財

文化財

文化財

索引

【あ】					
青岩	30	北湖グランド記念碑	16	戦役者慰霊碑	6
芦野	24	北灯台	34	蒼前神塔	13
芦野西地蔵	24	旧大湊海軍警備府小泊	34	惣染堂	14
芦野墓地地蔵	24	防備衛所跡		【た】	
芦野墓地地蔵碑	25	終島	34	大導師屋敷跡	13
芦野墓地百万遍	24	桐の木沢溜池石碑群	9	大漁祈念碑	32
阿曾内海岸	34	金多豆蔵劇場	7	高根	17
阿曾おこしはやし	38	弘誓寺	13	高根御蔵跡	14
阿弥陀如来像貞伝金仏	39	工藤梅山碑	5	高根川改修記念碑	12
いこいの岩	31	弘法寺	4	高根保安林碑	14
一ノ坂竣工碑	30	弘法寺七面様	4	高根南地蔵	15
一般国道三三九号貫通	30	熊野宮(下前)	35	高山龍神宮	17
記念碑		熊野神社石碑群	21	竹田入植十周年記念碑	26
稲荷神社(折戸)	33	熊野神社(豊島)	21	竹田入植二十周年記念	26
稲荷神社(上高根)	15	郡界オノコの木	31	碑	
稲荷神社(小泊)	18	解脱庵跡	15	武田村水利関係碑	23
稲荷神社(下高根)	27	源氏山又市碑	18	「太宰とタケ再会の道」	31
稲荷神社(田茂木)	24	甲子塚	4	文字碑	
稲荷神社(長泥)	26	光成院	35	田ノ沢溜池碑	19
稲荷神社(八幡)	10	光勝寺	22	田茂木	25
稲野神社(富川)	7	荒神宮	5	田茂木稲荷神社石碑群	25
稲野神社(若宮)	27	小泊	28	田茂木神明宮百万遍	25
井沼清七像	8	小泊北地蔵	29	田茂木渡	24
今泉	18	小泊港	32	田茂木墓地地蔵	25
今泉裏の河原	18	小泊庚申宮	33	田茂木墓地百万遍	25
今泉鉄山跡	19	小泊タム	31	田茂木臨時掛水記念碑	25
今泉百万遍	19	小泊築港記念碑	32	忠魂碑(内湯地区)	15
今泉墓地小堂	18	小泊西地蔵	32	忠魂碑(小泊地区)	29
今泉墓地忠魂碑	18	小泊東地蔵	29	忠魂碑(武田地区)	20
今泉南地蔵堂	19	小泊南地蔵	32	忠魂碑(中里地区)	5
岩木山大権現堂	33	小泊村開村記念碑	29	津軽森林鉄道今泉停車	19
薄市	16	五林地蔵堂	7	塚跡	
薄市北地蔵	16	五林神社	6	津軽中里駅	7
薄市甲子塔	16	五輪塔	6	寺屋敷跡(薄市)	16
薄市墓地忠魂碑	16	権現大鼓	39	寺屋敷跡(小泊)	34
薄市南地蔵	17	昆布掛北地蔵	16	寺屋敷跡(中里)	13
内海沼開田記念碑	27	昆布掛南地蔵	16	豊島	21
姥岩	34	【さ】		土澤ヶ浜	34
恵比須宮	32	西願寺	28	富野	20
円空作木造男神像	28	西光庵	15	富野石碑群	20
延命地蔵	34	齋藤藤丞頌徳碑	20	豊岡	23
大沢内	11	坂本台塚功碑	30	豊岡北地蔵	22
大沢内駅	11	佐々木惣七翁頌徳碑	17	豊岡北百万遍	22
大沢内北地蔵	11	猿賀神社石碑群	20	豊岡地蔵	22
大沢内溜池	11	猿賀神社(富野)	20	豊岡神明宮石碑群	23
大沢内溜池石碑群	11	猿賀神社船絵馬群	20	豊岡西百万遍	22
大沢内溜池地ナラの木	11	三昇万燈塔	6	鳥島川	22
大沢内西百万遍	11	下前権現崎太刀振り	39	十和田神社	11
大沢内ニタ見石碑群	11	下前地蔵	35	【な】	
大沢内墓地百万遍	11	下前百万遍	35	中里	4
大沢内南百万遍	11	柴崎城跡	32	中里北地蔵	4
大瀨海岸	32	柴谷万九郎顕彰碑	35	中里地蔵	6
尾崎神社	34	四本マツカ	14	中里城跡史跡公園	7
尾別	12	下高根北地蔵	17	中里石碑群	7
尾別北地蔵	12	下高根墓地忠魂碑	17	中里なにもさき踊り	39
尾別百万遍	12	下高根南地蔵	17	中里百万遍	6
漆としバッコ	8	下之切通終点之碑	29	中島堰記念碑	21
オドシコの穴	14	下之切通碑	19	中泊町博物館今泉分館	18
鬼神堂	15	春湧寺	29	中泊町博物館	6
折戸西地蔵	33	正行寺	28	中泊町博物館下前分館	35
折戸東地蔵	33	貞享の絵図	38	長泥	26
海落寺	29	小説「津軽」の像・文学	31	長泥稲荷神社石碑群	26
【か】		碑		長泥樋口竣工記念碑	26
傾石	30	小説「津軽」の像記念	31	中長北地蔵	26
加藤家旧宅跡	6	浄土院	22	中長泥百万遍	26
上高根北地蔵	14	浄土院百万遍	22	ツツ石	31
上高根甲子塔	14	橋南報恩碑	14	ツツ石崎会場跡	30
上高根溜池石碑群	14	徐福像	35	七平滝	30
上高根墓地忠魂碑	15	白旗神社	8	七平展望台	18
上高根墓地力士碑	15	真勝寺	6	奈良七五郎頌徳碑	20
加茂神社(芦野)	24	神明宮(今泉)	6	二宮尊徳像	29
加茂神社庚申塔	24	神明宮(尾別)	19	一番滝	17
鍵掛坂	33	神明宮(小泊)	12	のれ！それ！中里歌謡	5
観音堂(今泉)	19	神明宮(竹田)	32	【は】	
観音堂(大沢内)	11	神明宮(田茂木)	25	馬鹿川	27
観音堂(尾別)	12	神明宮(豊岡)	23	八幡	10
観音堂(小泊)	29	神明宮(中里)	5	八幡稲野神社石碑群	10
観音堂(薄市)	16	善導寺	9	八幡御蔵跡	10
喜上上げ	13	千年松	13	八幡宮(深瀬田)	9
				八幡宮(薄市)	16
				八幡地蔵	10
				八幡百万遍	10
				馬頭観音(尾別)	13
				馬頭観音(折戸)	33
				馬頭観音(富野)	20
				播磨屋敷野家住宅	35
				般若寺	21
				般若寺キョウ	17
				冷水口	14
				平田小六文学碑	33
				福浦	22
				福浦西石碑群	22
				福浦東石碑群	22
				福浦墓地百万遍	22
				福浦東地蔵	10
				深瀬田駅	10
				文字碑	10
				深瀬田八幡宮石碑群	9
				深瀬田東地蔵	10
				深瀬田百万遍	10
				藤田啓代顕彰碑	29
				不動堂(下前)	34
				不動の滝	13
				船盛礼	38
				弁天堂(小泊)	32
				弁天堂(下前)	35
				宝篋印塔	6
				【ま】	
				見返りの滝	31
				右一番滝	17
				みちのく松陰道碑	30
				湊番所跡	28
				南灯台	34
				養虫山人画	39
				宮川	7
				宮川甲子塔	7
				宮川地蔵堂	7
				宮川石碑群	7
				宮野沢	8
				宮野沢石碑群	8
				宮野沢観音堂石碑群	8
				宮野沢西地蔵	8
				宮野沢百万遍	8
				宮野沢南地蔵	8
				妙法寺	4
				胸肩神社	10
				明治百年植林記念碑(薄)	16
				明治百年植林記念碑(尾別)	15
				舩若	32
				【や】	
				薬師堂(尾別)	12
				薬師堂(中里)	12
				山神様	8
				山神堂	15
				ユズリ平	13
				吉田松陰遊賞之碑	18
				【こ】	
				ライオンゲートブリッジ	33
				ライオンベイブリッジ	33
				羅漢石	34
				カシタ瀧川碑	25
				龍神宮(小泊)	29
				龍神宮(下前)	34
				【く】	
				若宮稲荷神社石碑群	27
				若宮簡易水道竣工記念碑	27
				若宮原野開墾水田四百町歩城三記念碑	27
				若宮水理事業記念碑	27
				若宮百万遍	27
				若宮揚水電動機設備竣工記念碑	27
				湧つぼ	11